

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（財務会計Ⅰ）	単位数	3単位	学年（コース）	2学年（情報処理科）
使用教科書	高校財務会計Ⅰ新訂版（実教出版）				
副教材等	全商簿記検定最新段階式問題集1級会計 全商簿記検定模擬問題集1級会計 日商簿記検定2級問題集				

1 学習目標

- ・財務諸表の作成に関する知識と技術を習得させ、財務会計の意義や制度について理解させる。
- ・会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・株式会社特有の会社会計を学び、企業会計の意味・歴史・会計制度や財務会計の機能を理解させる。
- ・株式会社の資産・負債・資本の考え方や処理、損益計算の内容やその計算方法を学び、財務諸表を作成する。
- ・財務諸表の分析、連結財務諸表を理解させる。
- ・学習到達度を測るため、全商簿記検定1級会計と日商簿記検定2級の受験にチャレンジする。

3 学習計画

学 期	月	学 習 内 容	時間	評価方法
1学期	4	・第1章 企業と財務会計	38	定期テスト 授業の取り組み 問題集の提出 授業時使用のプリント提出
	5	・第2章 企業会計制度と会計基準 ・第3章 企業会計の歴史 ・第4章 資産の分類と評価		
	6	・第5章 流動資産（その1当座資産） ・第6章 流動資産（その2棚卸資産、その他流動資産） ・第7章 固定資産（その1有形固定資産） ・第8章 固定資産（その2減価償却） ・第9章 固定資産（その3無形固定資産） ・第10章 固定資産（その4投資その他の資産）		
	7	・第11章 負債 ・第12章 純資産		
2学期	9	（夏休みの課題テスト）（1学期の復習）	44	定期テスト 授業の取り組み 問題集の提出 授業時使用のプリント提出
	10	・第13章 損益計算の意味と基準 ・第14章 営業損益の計算 ・第15章 経常損益の計算 ・第16章 当期純利益の計算		
	11	・第17章 貸借対照表の作成 ・第18章 損益計算書の作成		
	12	・第19章 その他の財務諸表の作成 （全商簿記検定1級会計・日商簿記検定2級問題集を活用し学習）		
3学期	1	（冬休みの課題テスト） （全商簿記検定1級会計・日商簿記検定2級問題集を活用し学習）	30	定期テスト 授業の取り組み 問題集の提出 授業時使用のプリント提出
	2	・第20章 連結財務諸表の目的と連結の範囲		
	3	・第21章 連結財務諸表の作成（その1） ・第22章 連結財務諸表の作成（その2） ・第23章 財務諸表分析 （新聞等を活用しての企業の財務分析）（センター試験問題の解答）		

計112時間(47分授業)

4 課題・提出物等

- ・授業の中で配布されるプリントや問題集の提出
- ・長期休業中の課題の提出（別途指示）
- ・各学期の始めに課題テストを実施

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	企業会計の意味・役割や制度、財務会計の機能、財務諸表の作成、財務諸表からの情報を活用することなどに興味を持ち、財務会計の学習に積極的に取り組もうとしている。
思考・判断・表現	企業会計に関する諸問題の解決を目指して、自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、それを表現する能力を身に付けている。
技能	会計の基礎・基本的な考え方と技術を身に付け、会計情報を適切に活用する能力を身に付けている。
知識・理解	会計の基礎的・基本的な考え方と技術、財務諸表の作成、その財務諸表の活用方法を理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年5回の定期考査
- ・授業で活用するプリント
- ・長期休暇に出題される課題
- ・学習の取り組み状況（授業への参加、プリントや問題集の提出状況等）
- ・その他、進度に応じての小テストの実施

また、1年間の評定は、1学期から3学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

- ・1年生で売買業における簿記を学習し、株式会社の会計処理等原理原則を理解するのが困難であり、特に言葉は1年生の時よりも高度になるので、読解力を必要とする。基礎は簿記なので時々教科書を開いて復習しておくこと。
- ・財務分析より求められる数字の意味を理解しないと、ただの数字だけになり、社会に出るとこの分析力が一番求められることになる。
- ・知識と技術の積み重ねが必要であるため、毎時間の授業に集中して取り組むことが一番大切であると同時に、毎日コツコツと家庭学習をする習慣を身につけることも重要である。
- ・分からない所は積極的に教科担任や、友達を活用するようにしよう。
- ・全商1級会計と日商2級の検定問題は、出題傾向が異なるので注意しながら学習すること。

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（原価計算）	単位数	2単位	学年（コース）	2学年（情報処理科）
使用教科書	原価計算新訂版（実教出版）				
副教材等	全商簿記検定最新段階式問題集1級原価計算 全商簿記検定模擬問題集1級原価計算 日商簿記検定2級問題集				

1 学習目標

製造業における原価計算及び簿記に関する基本的な知識と技術を習得させ、原価について理解させるとともに、原価計算から得られる情報を活用する能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ・製造業における原価についての意味を理解させる。
- ・1年生で学んだ簿記・2年生で学んでいる会計と関連させながら、製造業における取引の仕訳→記帳→原価計算→財務諸表の作成までの過程を理解させ、分析する能力を育成する。
- ・学習到達度を測るため、全商簿記検定1級原価計算を受験する。及び日商簿記検定2級の受験を目標とする。

3 学習計画

学 期	月	学 習 内 容	時間	評価方法
1学期	4	・第1章 原価と原価計算 ・第2章 原価計算のあらまし ・第3章 工業簿記－製造業における簿記－ ・第4章 材料費の計算と記帳 ・第5章 労務費の計算と記帳 ・第6章 経費の計算と記帳	25	定期テスト 授業の取り組み 問題集の提出 授業時使用のプリント提出
	5	・第7章 個別原価計算 ・第8章 部門別個別原価計算 1 部門別計算の目的 2 原価部門の設定 3 勘定の設定 4 部門別個別原価計算の手続き		
	6	5 部門費配分表の作成 6 部門費振替表の作成 7 製造部門費予定配賦表の作成		
	7	・第9章 総合原価計算 1 総合原価計算の特色 2 総合原価計算の種類 3 単純総合原価計算 4 平均法による月末仕掛品原価の計算 5 先入先出法による月末仕掛品原価の計算		
2学期	9	（夏休みの課題テスト）（1学期の復習） ・第9章 総合原価計算 6 単純総合原価計算表と記帳方法 7 等級別総合原価計算 8 組別総合原価計算	31	定期テスト 授業の取り組み 問題集の提出 授業時使用のプリント提出
	10	・第10章 工程別総合原価計算		
	11	・第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理		
	12	・第12章 製品の完成と販売 ・第13章 決算の手続きと本社・工場間の取引 総合原価計算のまとめ		

3 学期	1	(冬休みの課題テスト) ・第 14 章 標準原価計算 (その 1)	1 9	定期テスト 授業の取り組み 問題集の提出 授業時使用のプ リント提出
	2	・第 15 章 標準原価計算 (その 2)		
	3	・第 16 章 直接原価計算 (その 1) ・第 17 章 直接原価計算 (その 2) ・記帳練習 第 1 例題・第 2 例題		

計 7 5 時間(4 7 分授業)

4 課題・提出物等

- ・授業の中で配布されるプリントや問題集の提出
- ・長期休業中の課題の提出 (別途指示)
- ・各学期の始めに課題テストを実施

5 評価規準と評価方法

評価は、次の 4 つの観点から行います。

関心・意欲・態度	製造業における原価計算と工業簿記に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫をするとともに、その成果を表現する能力を身に付けている。
技能	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理している。
知識・理解	製造業における原価計算と工業簿記に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、原価計算の基本的な仕組み及び工業簿記の基本構造について理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年 5 回の定期考査
- ・授業で活用するプリント
- ・長期休暇に出題される課題
- ・学習の取り組み状況 (授業への参加、プリントや問題集の提出状況等)
- ・その他、進度に応じて小テストの実施

また、1 年間の評定は、1 学期から 3 学期の年間を通じて、上記の内容及び出席状況により総合的に判断して決定します。

6 担当者からの一言

- ・1 年生で売買業における簿記を学習し、2 年生ではその基本の上に製造業の立場で原価を求め、その数値の活用をしていくことで、「原価」を知らないと、利益追求もできなくなってしまう。立場が異なるため勘定なども聞き慣れないものが増えるが、簿記同様繰り返し学習することで身に付くことである。
- ・全商の 1 級合格になるためには、原価計算と会計の両方が合格しないと 1 級にならない。1 級は進路決定のときにも必要になるので、2 年生のうちに取得しないと 3 年生では困難になる。
- ・検定が毎週のように続いていくが、その中から「やればそれなりの結果が出るものである」ことを自覚しながら学習をしてもらいたい。
- ・日商 2 級と全商の原価計算の出題傾向が若干異なるので、できるだけ難しいものにチャレンジをしていけば後が楽になる。

令和2年度シラバス（商業）

学番9 新潟県立新潟商業高等学校

教科（科目）	商業（情報システム）	単位数	5単位	学年（コース）	2学年（情報処理科）
使用教科書	COBOLプログラミング				
副教材等	よくわかるマスター 基本情報技術者試験対策テキスト				

1 学習目標

激しく社会が変化し、益々高度情報化社会が進展する中、あらゆる分野でITが生産性向上や競争力向上の鍵となっている。そのため情報及び情報技術を活用するための知識と技能を養うことが益々重要になっている。そこで、情報処理システムの開発に必要な共通的基础知識、技能及び態度を育成する。

2 指導の重点

- ・科目「情報処理」や「プログラミング」で習得したことを基礎として、さらに発展させた内容の講義や演習を行う。
- ・高度情報化社会の課題を主体的・合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と知識を身に付けることにも重点をおき指導します。

3 学習計画

学 期	月	単 元 名	主要学習領域・学習活動	時間
1 学期	4	・ハードウェア コンピュータのデータ表現	・基数変換、シフト演算、命令の実行手順、論理演算回路などの内容を指導し、コンピュータの動作原理について学習させる。	7 6
	5	中央処理装置と主記憶装置 補助記憶装置		
	6	入出力装置 ・データベース	・データベースの正規化、SQL言語、E-R図について演習問題を用いて学習させる。	
	7	データベースの概要 SQL言語	・発展学習Ⅰ VBAを活用したプログラム設計。	
2 学期	9	・情報処理システム 情報処理システムの処理形態 高信頼化システムの構成と評価	・信頼性が高く、より効率のよい情報処理システムの構築について学習させる。	8 9
	10	・ソフトウェア オペレーティングシステム プログラム言語と言語プロセッサ	・オペレーティングシステムを中心としたシステムソフトウェアの目的や機能について学習させる。	
	11	ファイル	・データ構造として、リスト構造、スタックとキュー、木構造について学習させる。	
	12	・データ構造とアルゴリズム データ構造 基本アルゴリズム	・クイックソート、シェルソートなどアルゴリズムの発展的な内容を時間をかけて学習させる。 また、演習問題を活用する。 ・発展学習Ⅱ VBAを活用したプログラム設計とシステム設計。	
3 学期	1	・システム開発の基礎 ウォーターフォールモデル システムの運用／保守	・システム開発技法とシステムの運用保守について学習させる。また、セキュリティについて、最新の事例を取り入れて学習させる。	5 9
	2		・通信ネットワーク分野の知識と技術を学習させる。	
	3	・通信ネットワーク 通信ネットワークの仕組み ネットワークアーキテクチャ LANインターネット	・ネットワークシステムの管理について学習させる。 ・発展学習Ⅲ VBAを活用したシステム設計	

計 224時間（47分授業）

4 課題・提出物等

- ・国家試験用プリント
- ・基本情報技術者試験（または情報セキュリティマネジメント試験）問題集
- ・全商情報処理検定1級問題集（ビジネス情報分野）
- ・コンピュータ実習課題

5 評価規準と評価方法

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	システム開発について関心を持ち、その知識と技術の習得を目指し意欲的に取り組むとともに、システムエンジニアとしての創造的な能力と実践的な態度を身につけている。
思考・判断・表現	システム開発に関する諸課題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的、基本的な知識と技術を適切に活用し、判断、表現する創造的な能力を身につけている。
技 能	システム開発に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、情報処理システムの開発に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。
知 識 ・ 理 解	システム開発に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、情報処理システムの開発の意義や役割を理解している。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年5回の定期考査
- ・課題（提出物）、小テスト、問題集等への取り組み
- ・学習への参加状況
- ・検定取得目標 経済産業省主催 基本情報技術者試験・情報セキュリティマネジメント試験
全国商業高等学校協会主催 情報処理検定 ビジネス情報部門1級

6 担当者からの一言

問題集、プリントを中心に学習します。

国家試験合格を目標に授業の予習・復習をすることが非常に大切になります。また、課題にしっかりと取り組み、応用力をつけるために家庭での学習時間を確保しましょう。難関資格にチャレンジすることを楽しみましょう。